

40年ぶりの「R」!箱根路を駆け抜けた! コミュニティ福祉学部コミュニティ福祉学科 中村嘉孝君特別インタビュー



▲「R」のユニフォームが40年ぶりに箱根駅伝に

2008年1月3日 目指していたのですが、結果を出すことが出来ませんでした。そのときに「来年は絶対に学連選抜チームに入ります」と宣言したのです。その年の箱根駅伝で補助員(大会運営の補助)を務めた時は悔しかったです。

3年生の6月から陸上競技部の主将になりました。プレッシャーを感じることもありました。それを力に変えられようになり、みんなの期待に応えたい、と思うようになり、関東インカレで箱根駅伝を走ったメンバーと戦ったことも非常に刺激になりました。

予選会では多くの選手が出場するので、走っている途中で自分が今何位で走っているのか、判らないのです。ラスト一周の時点で130位くらいにいることは判ったので、その後追い込みました。ゴールしたとき、何位だったのか分からない状態でした。ですから、学連選抜メンバーに選ばれたときは本当に嬉しく思いました。コーチも涙を流して喜んで下さいました。

ゴール直後の中村選手を走ることが出来るのは10名です。実は合宿途中で発表された10名の中に私の名前はありませんでした。「できることはやってきたのに、なぜ?」という思いがあり、落ち込みました。応援してくれている親にも部員にも言えず、辛い思いをしました。けれども最後の練習会にチャンスがある、そこでアピールしようと思ひ、気持ちを切り替えました。その姿勢が評価されたのだと思います。12月29日の正式エントリー発表の数日前、学連選抜チームの監督から「9区を走ってくれ」と言われ、正式発表になったときは「みんなの期待に応えることができようか」というのが率直な感想です。箱根駅伝は当日のエンタリー変更もあります。万全のコンディションで臨めるように整えました。

当日はまったく緊張しませんでした。周囲はなかなか「才能があるのだね」とか「箱根駅伝を走った」ということに対して「もともと」と素質があったのだね」とか「今後の抱負を。」

「箱根駅伝を走った」ということに対して「もともと」と素質があったのだね」とか「才能があるのだね」とか「今後の抱負を。」



が、非常にリラックスして、冷静でいることが出来ました。8区を走った選手と事前に交わした「笑顔で襷渡しをしよう」という約束どおり、襷を受け取りました。箱根駅伝を走る、という楽しみ、喜びと「しっかりと自分の走りに応えよう」という思いで走っていました。沿道からの「立教頑張れ!」「中村頑張れ!」の応援ははつきりと聞こえましたし、旗を振ってくださっている方も見えました。応援してくださった何人かの方とは目が合ったと思います(笑)。残り3kmあたりから辛かったのですが、みなさんの応援のおかげで走りきることが出来ました。途中、感謝の気持ちで一杯になり、泣いてしまいました。当日沿道に応援に来てくださった方も、テレビ等で応援してくださった方も、自分のことのように喜んでくださり嬉しく思いました。タイムも区間順位も予定通りでした。



▶ 10区ランナーに襷をつなげる

箱根駅伝(1920・大9 第1回開催) 立教大学出場記録

出場回	順位
第15回(昭9年)	11位
第16回	13位
第17回	12位
第18回	4位
第19回	4位
第20回	5位
第21回	出場なし
~2年間中断~	
第22回(昭18年)	6位
~3年間中断~	
第23回	出場なし
第24回	11位
第25回	9位
第26回	7位
第27回	6位
第28回	6位
第29回	7位
第30回(昭29年)	7位
第31回	8位
第32回	7位
第33回	3位(最高順位)
第34回	7位
第35回	4位
第36回	7位
第37回	14位
第38回	6位
第39回	14位
第40回(昭39年)	12位
第41回	11位
第42回	11位
第43回	出場なし
第44回	11位
~20年間中断~	
第84回(平20年)	中村嘉孝君 関東学連選抜メンバーに 選出(9区)

2007年度に定年退職を迎えた先生方

今までありがとうございました!

文学部	細川哲士
文学部	権文夫
文学部	武藤勇一
文学部	大塚善雄
経済学部	小松善三
経済学部	井上詔三
経営学部	檜枝光太郎
理学部	吉森正人
社会学部	門奈直樹
社会学部	小松英樹
コミュニティ福祉学部	宮内敬太郎

(敬称略)



▲第1回入学式の様子

以上は、50歳以上のシニア層に対して、人文的の教養の修得を基礎とし、「学び直し」と「再チャレンジ」のサポートを目的とした日本の初めの「場」です。来年は、より多くの校友の入学をお待ちします。詳しくは本学HPをご参照下さい。

「学びの情熱尽きることなく」立教セカンドステージ大学入学式挙行政

去る4月4日(金)の午前10時より、桜の咲く池袋キャンパスのチャペルにおいて、立教セカンドステージ大学の第1回入学式が挙行政されました。本年度は、定員70名に対して170名の応募者があり、第1次選抜(エッセイ審査)と第2次選抜(面接試験)の結果、96名の入学者を決定しました。立教大学の校友23名の入学がありました。

本学は、50歳以上のシニア層に対して、人文的の教養の修得を基礎とし、「学び直し」と「再チャレンジ」のサポートを目的とした日本の初めの「場」です。来年は、より多くの校友の入学をお待ちします。詳しくは本学HPをご参照下さい。

式次第は、本学の建学の精神に即して、チャペルにおいて伝統的なキリスト教の儀式に則り、聖歌、チャップリンによる祈り、大橋英五学長(立教大学総長)の訓辞等が執り行われました。受講生は、楽しさとともにやや緊張した面持ちの表情が伺われ、これから1年間の授業に大いに期待が寄せられました。